

第 56 回 JIA アーバントリップ見学会の報告

実施日 : 2008 年 3 月 25 日(火)

テーマ : 時代を先導する最先端の大学図書館

見学先 1. 成蹊大学情報図書館 (東京都武蔵野市)

設計:坂茂建築設計、三菱地所設計

説明:坂茂建築設計 平賀信孝氏

三菱地所設計 渡辺稔氏、佐藤琢也氏

2. 多摩美術大学図書館 (東京都八王子市)

設計:伊東豊雄建築設計事務所

説明:中山英之氏 (元 伊東豊雄建築設計事務所所員)

第 56 回コーディネーター 倉田 充 (株式会社久米設計)

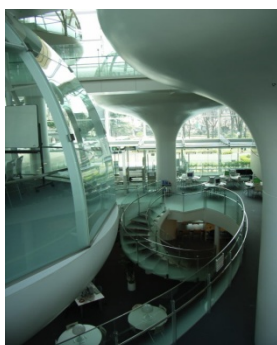
「成蹊大学情報図書館」



「成蹊大学情報図書館内部」



「成蹊大学情報図書館内部」



「多摩美術大学図書館」



「多摩美術大学図書館内部」



「多摩美術大学図書館内部」



見学後記

今回のアーバントリップは、時代を先導する最先端の大学図書館を訪ね、時代の移り変わりのとられ方や設計思想をお伺いしながら、施設見学や質疑応答及びレクチャーを受けました。まず、

坂茂建築設計＋三菱地所設計の「成蹊大学情報図書館」を見学しました。既存の校舎をイメージさせるレンガタイルとガラスの外観に、そこから透けて見える近未来的な仕掛けがほどこされた浮遊感のある内観がうかがえました。

その、内部空間は「プラネット」というキノコ型のガラスのカプセルがいくつも床から立ち上がっており、これは、静寂が求められる図書館のなかでも議論ができる空間として位置づけられています。そのほか、この「プラネット」が浮かぶアトリウムの両サイドには、全体の地震力を負担する4層の書架棟が配置されるなど、空間、構造、機能がバランスよく明快に構成された建築でした。

続いて見学した伊東豊雄建築設計事務所の「多摩美術大学図書館」は、特徴的なコンクリートのアーチ状の開口の外観が出迎えます。この構造体であるアーチ構造（荷重はコンクリート内部の鉄板が支えるSC造）は、既存敷地のゆるやかな勾配を取り込んだ1階床レベルと呼应し内部空間を特徴づけています。そして、この交差するいくつものアーチの重なりが軽快なリズム感が、図書館への学生の誘導と自由な雰囲気を作り出していました。

最後に、参加者は、この2つの特徴的な図書館を見学して、これからの教育現場での「建築」の新たな役割と挑戦を感じ取ったものと思います。

記：第56回アーバントリップコーディネーター 倉田 充（株式会社久米設計）